

第3学年 社会科 学習指導案

1. 小単元名『くらしのうつりかわり ～台所で使っていた道具の変化～』

(教科書：『小学社会 3・4 上』 p. 106～p. 117／学習指導要領：内容（5）ア）

2. 小単元の目標

古くから残るくらしに関わる道具やそれらを使っていた頃のくらしの様子を調べ、人々のくらしの移り変わりがわかり、当時の人々の工夫や知恵に気づくことができる。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
古くから残る道具やそれらを使っていた頃のくらしの様子に関心をもち、意欲的に調べることができる。	人々のくらしの変化や道具の変化から、人々のくらしの工夫や知恵を考えることができる。	昔と今のくらしについて、インタビューや写真、グラフなどの資料をもとに、自分なりにまとめることができる。	道具や人々のくらしの変化に、人々の工夫や知恵がこめられていることがわかる。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

本学級の子どもたちは、祖父母と一緒に暮らしている子どもが少なく、昔のくらしの仕方や道具は身近でない。また、昔からある道具について、その歴史や変化を意識せず、使用している。そのため本小単元の導入では、実際に自分たちで火おこしをして、七輪やうちわなどの道具を使ったり餅を焼いたりして、昔のくらしを体験してから始めたい。

(2) 教材について

台所の古くは、かまどであり、火をつけたり火を保ったりする労力は大きな負担であった。その後、マッチで火をつけるガスコンロ、つまみをひねると火がつくコンロやIHヒーターへと変化し、料理にかかる負担は減っていく。それにより、余った時間や労力を他のことに使えるようになり、人々の生活は変化する。台所の変化の過程で、火をつけるために必要だった道具は、必要でなくなっていく。もちろん火おこし用に使われていたうちわも、台所から姿を消した。しかし、うちわは今なお私たちの身のまわりで使われている。それは、うちわの多様な用途によるところが大きい。現在は火をつけたり涼をとったりする道具としては、昔ほど使用されなくなったが、近年の環境に配慮した生活、お祭りや土産物、そして何より企業の宣伝広告などに使われることにより、その販売量は増加している。また 2011 年の東日本大震災を機に、涼をとる道具としても見直され始めている。このように、台所で使っていた道具の移り変わりを追究することで、子どもたちは、人々の生活の変化や工夫を学習する。さらに、うちわを追究することで今もある昔の道具の存在や使い方を工夫している人々の知恵に気づくことができると考えられる。そして、それは道具の移り変わりを

「生活の便利、不便」の視点だけでなく、「生活の変化にあわせて用途を変える」という視点から捉えることにつながると考える。

(3) 指導上の工夫・留意点

本小単元の前半の学習では、台所で使っていた道具の移り変わりを中心に学習を進める。この学習を通して、子どもたちは火を使って料理をすることの大変さを実感し、道具の移り変わりによって人々の生活が変化し、便利になっていることを学習する。そして、後半の学習では、主に火をおこしたり涼をとったりする道具として使われていた「うちわ」を取り上げる。子どもたちは、火をおこしたり涼をとったりするという用途が少なくなっているにもかかわらず、生産量が伸びているという事実に出会い、疑問をもち、意欲的に調べていくと考えられる。その過程でうちわの用途の変化に気づき、うちわの用途の多様性や人々の知恵に気づくだろう。

前半の、台所で使っていた道具の追究では、道具の移り変わりとともに変化していった人々の生活を自分の家庭生活と関連づけて捉えられるようにする。特に、料理にかかる労力を具体的に調べることで、料理をする人の思いや願いについて考えさせたい。後半では、うちわを追究することで「新しいものがよい」「使わなくなったものはいらない」という考え方ではなく、用途を変えて使い続けていく人々の工夫や知恵に触れさせたい。

また、本小単元は、社会科を学習する子どもたちにとって初めての歴史的な内容であることに配慮して、家庭での聞き取りや体験活動などを取り入れて、学習が具体的に展開できるようにしたい。

5. 小単元の指導計画（総時数 14 時間）

時	ねらい	○学習活動 ・ 内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① (つかむ)	昔の暮らしに関心をもつ。	○正月に餅を食べた経験話し合う。 昔はどうやって餅を焼いていたのだろう。 ・七輪を使っていた。 ・火はどうやっておこしていたのかな。 ・必要な物を調べて、火をおこしてみよう。 ○班ごとに火おこしに必要な物を話し合い、次時に持ってくるよう指示する。	◎餅を食べている写真 ◇家や祖父母の家にある物などを想像し、自由に話し合わせる。 ◎七輪 ◇七輪の話が子どもから出たら、実物を提示する。 ◆昔の餅の焼き方について、想像している。 (関・意・態／発言) ◇七輪、マッチは学校で準備する。 ◇餅を焼いた経験について、家庭でインタビューするよう伝える。

② ③ (つかむ)	火おこし体験を通して、昔の人のくらしを体験する。	○火おこし体験をする。 火をおこして、餅を焼いてみよう。 ・火をおこすのは難しいなあ。 ・風を送るものが必要だ。 ・もっと早く火をおこす秘密があるはずだ。 ○火のおこし方について、再度調べてくるよう指示する。	◎七輪、マッチ（教師が準備する） ◎子どもたちが自分で考えて準備した道具（火吹き竹、うちわなど） ◇火をおこすので、安全に十分配慮する。複数指導が望ましい。 ◆火おこし体験に意欲的に参加している。 （関・意・態／発言・行動） ◇火のおこし方について、家庭でインタビューするよう伝える。
④ ⑤ (つかむ)	火おこし体験（２回目）を通して、昔の人のくらしを体験する。	○２回目の火おこし体験をする。 火をおこして、餅を焼いてみよう。 ・薪と薪の間を空けるといいよ。 ・うちわで風を送るとよく燃えるよ。 ・煙が目にしみるね。 ・やけどしそうで危ないね。 ・時間がかかるね。 ・昔の人は大変だったんだな。	◇安全に十分配慮する。 ◇火おこしの難しさや要する時間の長さから、昔の道具を使って火をおこすことの苦労を捉えさせる。 ◇風を送るうちわの必要性を感じさせる。 ◆工夫して、火おこし体験に参加している。 （関・意・態／発言・行動）
⑥ (つかむ)	昔のくらしの大きさがわかり、道具の変化を調べる意欲をもつ。	○火おこし体験の感想を話し合う。 ・火をおこすのは、難しかったよ。 ・毎日火をおこすのは大変だ。 ・煙や火が怖かったよ。 ・火をおこすのは、時間がかかるね。 ・料理するのに火は必要だね。 ・うちわで風を送るとよく燃えたね。 ○火をおこす道具がどのように変わったか想像する。 火おこしの道具は、どのように変わったのだろう。 ・かまどからガスコンロ、今はIHヒーターもあるね。 ○火おこしの道具の変化について調べてくるよう指示する。	◎火おこし体験をした時の写真や動画 ◇火をおこすことの難しさや危険性、要する時間の長さなどを話し合うことで、昔の人の苦労に共感する。 ◇うちわの必要性を確認しておく。 ◆火おこしの道具の変化を調べる意欲を持つ。 （関・意・態／発言・行動） ◇火おこしの道具の変化について、家庭でインタビューするよう伝える。

⑦ ⑧ (調べる)	火おこしの道具の変化にともなった、調理をする人の生活の変化がわかる。	○火おこしの道具の変化を考える。 火おこしの道具は、どのように変わったのだろう。 ・かまどからガスコンロ，IH ヒーターになってきた。 ・簡単で安全になったね。 ・コンロにも酸素を送るところがあったよ。形は変わったけれど，やり方は似ているね。 ・料理に時間がかからなくなったね。 ○料理をする人の生活の変化について話し合う。 料理をする人の生活は，どのように変わったのだろう。 ・料理をしながら，他のことができる。 ・共働きの家庭が増えたね。 ・時間を決めて仕事ができるよ。 ・塾に送ってもらえるよ。 ・一緒に過ごす時間が長くなって，嬉しい。 ・道具が変わって，料理をする人の生活も変わったよ。	◎子どもが調べてきた資料 ◇安全，簡単，時間がかからないなど，生活の変化にかかわる視点をおさえ，次時の学習につなげる。 ◇「風」に関する発言には気をつけておきたい。取り上げるとうちわにつながりやすくなる。 ◆火おこしの道具の変化がわかる。 (知・理／発言・ノート) ◇自分の家庭のことと関連づけて考えさせたい。料理をする人の生活の変化が，自分の生活にも影響を与えていることを実感すると，さらに考えが深まる。 ◆人々のくらしの変化を道具の変化と関連づけて考えることができる。 (思・判・表／発言・ノート)
⑨ (調べる) 【本時】	うちわの販売数が伸びている理由を考える。	○火おこしの道具について振り返る。 ・使う道具は少なくなった。 ○うちわの販売数が伸びている事実に出会う。 調理や涼をとるのにうちわは使わなくなったはずなのに，なぜ販売数が伸びているのだろう。 ○うちわの販売数が伸びている理由について予想し，話し合う。 ・家にあるよ。 ・バーベキューで使っている。 ・キャラクターものが多い。 ○考えをまとめ調べる方法を考える。 ・家にあるうちわを見てみよう。	◇火おこしの道具（うちわ）が使われなくなったことを確認する。 ◎うちわの販売数のグラフ ◇グラフは一度に見せない。提示方法を工夫することで子どもたちの関心を高める。グラフの増減を予想したり，その根拠を話し合ったりする。 ◇うちわについて，自分の生活を振り返りながら考えさせる。 ◆うちわの販売数が伸びた理由について，自分の考えをもつことができる。 (思・判・表／発言・ノート)

⑩ (調べる)	うちわの販売数が伸びている理由について、実物を見ながら考えを話し合う。	○うちわの販売数が伸びている理由について話し合う。 家にあるうちわを見て考えよう。 ・キャラクターものも多いね。 ・商品や電話番号が載っているものが多いね。 ・うちわはみんなが見るし、捨てにくいから、宣伝にいいね。 ・まだわからないから、アンケートをとろう。	◎うちわの実物 ◇家庭からうちわを持ってくるよう伝えておく。教師も様々なうちわを準備するとよい。 ◇根拠をもとに、自分たちが納得いくまで話し合わせる。 ◆うちわの販売数が伸びている理由について、根拠をもとに考えている。 (思・判・表／発言・ノート) ◇アンケートを作成して実施する。同学年や他学年，または街中など，子どもと話し合いながら行うとよい。
⑪ (調べる)	うちわの販売数が伸びている理由について考えを深め，うちわの用途が変わってきていることを捉える。	○うちわの販売数が伸びている理由について話し合う。 アンケートの結果から話し合おう。 ・やっぱり宣伝用のうちわが多いね。 2011 年の販売数が伸びているのはなぜだろう。これからうちわはどうなっていくのだろう。 ・東日本大震災があった年だね。 ・節電など，環境に配慮した生活が見直されているんだ。 ・うちわも，涼をとる道具として見直されているんだね。	◎アンケート結果 ◎うちわの販売数のグラフ ◇東日本大震災の概要については教師から補足する。 ◇涼をとる道具として「見直されている」という点に注目したい。 ◆うちわの用途が変わってきていること，涼をとる道具としても見直されていることがわかる。 (知・理／発言・ノート)

⑫ ⑬ ⑭ (まとめる)	様々な昔の道具について調べ、昔の道具のよさや今の生活とのつながりを話し合う。	○他の昔の道具についても調べる。 他の道具についても、昔とのつながりを調べてみよう。 ・私の家では、小さい洗濯板で靴下を洗っているよ。 ・炊飯ジャーには、昔からの羽釜のよさが生かされているんだね。 ・今も使っている、昔の道具があるんだね。 ・今の道具にも、昔の道具のよさが生かされているんだね。	◎学校資料室や博物館の見学なども積極的に取り入れたい。 ◇昔の道具のよさや、今の生活とのつながりといった視点で、道具を見るよう伝える。 ◆昔の道具のよさや、今の生活とのつながりを考えることができる。 (思・判・表／ノート)
-----------------------	--	---	--

6. 本時の指導（第9時）

（1）本時のねらい

うちわの販売数が伸びている理由について、自分なりの考えをもつことができる。

（2）本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
15	○これまでの学習を振り返る。 T：これまでの学習を振り返りましょう。 C：火おこしは大変だったな。 C：料理をするのに時間がかからなくなった。 C：家の人の生活の仕方が変わったね。 C：火をおこす道具は使わなくなった。 ○うちわの販売数を予想する。 T：それでは、うちわの販売数はどうなったと思いますか。 C：うちわは使わなくなったから、減ったと思う。 ○グラフを見て、うちわの販売数を確かめる。 T：実際に減っているかどうか、グラフから読み取りましょう。 C：あれ、うちわの販売数は増えているよ。 C：使わなくなったのに、なぜだろう。 調理や涼をとるのにうちわは使わなくなったはずなのに、なぜ販売数が伸びているのだろう。	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価 ◎学習の足跡がわかる掲示物や写真 ◇火おこしの苦労を思い起こさせる。 ◇火おこしの道具（うちわ）を使わなくなったことを確認する。 ◇道具の変化によって、人々のくらしも変わったことをおさえる。 ◎うちわの販売数のグラフ ◇グラフは一度に見せない。提示方法を工夫することで子どもたちの関心を高める。グラフの増減を予想したり、その根拠を話し合ったりする。

25	○うちわの販売数が伸びている理由について予想する。 T：身のまわりで、うちわを見かけることはありますか。 C：うちわはぼくの家にもあるよ。 C：お店や道でもらうよ。 T：うちわをどのように使っていますか。 C：エアコンの温度を下げずに、うちわを使ってあおいでいるよ。 C：節電のために、うちわを使うことが増えているのかな。 C：バーベキューやお祭りの時に使うよ。 C：キャラクターや芸能人のうちわが人気だよ。 C：商品として売られるうちわも増えたのではないかな。 C：もらったうちわには、商品の宣伝や店の電話番号が載っているよ。 C：うちわであおぐと、みんな見るね。 C：うちわだと、普通のチラシより捨てにくいね。 C：宣伝のために、うちわを使うことが増えているのではないかな。	◇今も生活の中でうちわを見かけることを確認し、課題意識を高める。 ◇家庭で「どのように使うのか」や「うちわを買っているのか」などを問う。 ◇うちわを数本用意しておき、状況に応じて提示する。 ◇出された意見は板書し、他の意見とつないでいく。 ◆うちわの販売数が伸びた理由について、自分の考えをもつことができる。 (思・判・表／発言・ノート)
5	○本時の学習を振り返って自分の予想をまとめ、今後調べる方法を考える。 T：今日の話し合いをもとに、自分の予想をまとめましょう。予想したことやわからないことについて、調べる方法も考えましょう。 C：うちわがどれくらい売れているのか確かめたい。お姉ちゃんが芸能人のうちわを買っていたから、お姉ちゃんに聞いてこよう。 C：うちわがどれくらい宣伝に使われているか確かめたい。うちわに載っている商品を見てこよう。 C：自分の家にあるうちわを持ってきて、調べよう。	◇本時でもった疑問や調べたいことをまとめ、どのように調べたらよいか考えさせる。

7. 備考

- ・前半の火おこし体験の苦労を実感すればするほど、道具の変化を追究する意欲につながる。また、道具の変化による人々のくらしの変化は、自分の家庭生活と関連づけて考えさせたい。
- ・火おこしの道具の不必要性を感じているほど、うちわの販売数の増加に驚きをもつ。そして、それが追究意欲につながる。
- ・日頃、身近にあるうちわの「用途の変化」を捉えることができれば、「便利、不便」という見方だけでなく、「用途を変えて使い続ける人間の知恵」という見方から、道具に触れられると思う。